

差別をなくすために

保坂恵里 中山明星

主査:岡部真二 教諭

要旨

近年、LGBT 差別に関するニュースが多くのテレビ番組で放送されているのを頻繁に目にする。このような差別はそれぞれの国の性格、宗教、そして時代背景によるものだとされている。私たちはこの問題を解決するために、LGBT の正しい現状を調べたうえで、レインボーグッズを制作、販売し、LGBT への理解を広げようと思う。

To Eliminate Discrimination

Eri Hosaka , Akari Nakayama

Supervisor : Okabe Shinji

Abstract

In recent years, we feel news of LGBT are featured on many TV programs. We thought prejudiced understandings formed by each country's characteristic religion and period backgrounds prevails.

To solve this problem, we are going to research the present circumstances correctly and make rainbow goods, sell them, and spread understanding about LGBT.

1.研究のきっかけと仮説

近年、様々な年代で LGBT 差別への関心が高まっているように感じる。特に、2015 年国連サミットで採決された SDGs (持続可能な開発目標) では不平等に関する項目が設定されており、世界で取組もうとする動きが始まった。この問題を解決するため LGBT の人々を尊重するという意味を持ったレインボーグッズの作成、普及に努めるという取り組みを考えた。多様性を尊重する環境作りに貢献することが出来ると考えられる。

2.研究方法

この研究をするに当たり、基礎調査として SDGs や現在の行政・企業での取り組み、LGBT の現状について調べた。また、フィールドワークとしてオーストラリアで実際に現地の人々に差別問題の関心についてインタビューを実施した。

3.調査結果

(1)LGBT とは

Lesbian...レズビアン(女性同性愛者)

Gay...ゲイ(男性同性愛者)

Bisexual...バイセクシュアル(両性愛者)

Transgender...トランスジェンダー(性別超境者)

の頭文字をとった単語でセクシュアルマイノリティ(少数愛者)の総称である。日本における LGBT の人口割合は約 8% (12 人に 1 人)とされており、これは日本の左利き人口や AB 型の人口の割合とほぼ等しい。本人が親しい人に LGBT だと告白(カミングアウト)することもあるが、現状、差別や偏見にさらされることがあり、他人が本人の同意なく暴露(アウティング)する危険性もある。カミングアウトによる当事者の負担としては、「自分を偽った生活をしていると生活のリアリティが希薄になり、自分の人生はとるに足らないものだという感覚が育っていった。このことが精神疾患を患う要因の一つになった」などの声が上がっている。

(2) 現状

LGBT 当事者が実際に抱えている悩みやあまり知られていない現状について調査した。その生の声を場面ごとに分けて以下に述べる。

(ア) 学校生活

- ・学校で「男のくせに」「気持ち悪い」「ホモ」「レズ」など侮辱的な言葉を投げかけられ、学校に行くことがストレスとなった。
- ・教室内でホモやオカマという言葉が日常的に笑いの対象になっており、自分のセクシュアリティがばれたら生きていけないと思ったため、その場の空気と一緒に笑わざるを得なかった。
- ・同級生から性的指向や性自認に関するいじめを受けていたため先生に相談したところ、「お前が悪い、何かあれば退学だ」と言われた。

学校という閉鎖的な空間では、子供にとって教師の言うことは絶対であり、その後の人格や道徳形成において大きな役割を担っている。LGBT への認識が深まり、教育法も変化している一方で、未だ男は男らしく、女は女らしくという考えを持っている教師も多く、このような差別的な状況が生まれてきてしまっていると考えられる。

(イ) 職業現場

- ・履歴書の性別欄で男性女性いずれかの欄を選ぶようになっており、採用する企業側が男女の区分を強く認識している表れである。そのため、曖昧な性を持っている人にとって負担となっている。
- ・性別変更をしたところ、会社に口止めされた。
- ・「スーツ」という文化は男女をはっきりと分けさせて見せるため、性に違和感がある人々にとってどちらの性のスーツを着るか、もしくはスーツを着用しない職場に絞って就職するかなど様々な問題に直面する。
- ・職場ではゲイであることを隠しているが、女装ネタを強制され、ひどい苦痛を感じ、うつ病になった。

現在の企業では、男女の区分を意識しているところが多く、LGBT の人々にとって職業選択だけでなく、その会社に勤め続けること、仕事仲間にカミングアウトするかどうかを見極めることなど、たくさんの悩みが伴う。

(ウ) 住居探し

- ・大家がゲイカップルだという理由で入居を拒否する。
- ・お互いが住宅ローンを含むペアローンは、ほとんどの場合、連帯保証人になれる親族同士でないと組むことができないため、多くの地域で同性婚が認められていない日本ではペアローンが組めず、異性愛カップルとは税に関する手続きなどが変わってくる。
- ・内見の時に不動産業者の社員が関係性をしつこく詮索してきた上、身分証明時にセクシュアリティをカミングアウトさせられた。

衣食住にかかわることで異性愛カップルには当然のようにできることも、同性愛カップルには偏見とともに拒否される事例がある。また、望まぬカミングアウトを強制させられることもあり、未だ不自由を感じている。

(エ) 社会的な関係認識

- ・出会いの場が限られてしまっている。
- ・老後に向けてパートナーと結婚相当証明書を発行するか、パートナーシップ制度に登録するか、パートナーとの関係に名前を付けず暮らしていくかなどパートナーとの社会的関係をどうするか悩んでいる。
- ・子供が欲しいと思った時、パートナーとの意見を一致させた上で、養子縁組を組むか、代理母出産をするか、

生殖補助医療を用いるか悩んでいる。

・パートナーの死別に際して、親族から葬儀の参列の声がかからなかった。

法的な夫婦でないことからパートナーと正式な手続きができず、赤の他人として扱われてしまうことがある。周りからの祝福を受けられないことが彼らの最大の悩みであろう。

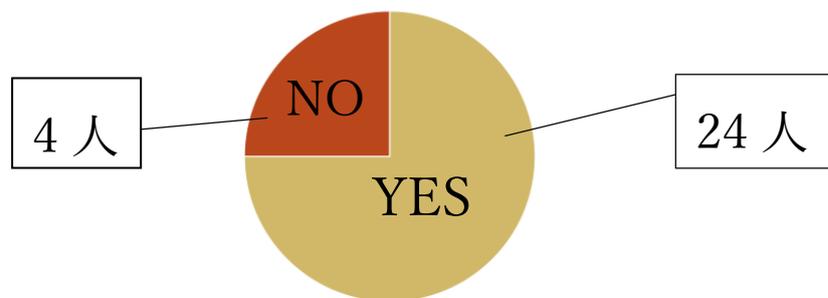
(3) オーストラリアにおける調査結果

下の図は 2019 年 8 月、ニューサウスウェールズ州のフィールドワークで 28 人に対し、

- ① LGBT を知っているか
- ② どのような時に男女差別を感じるか
- ③ 差別をなくすための教育を受けたことがあるか
- ④ 差別をなくすための教育は必要だと思うかどうか

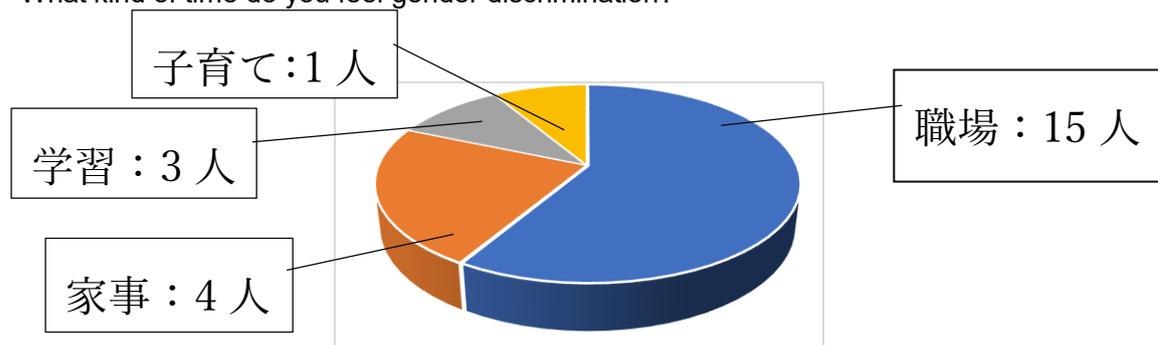
の 4 つについて尋ねた結果である。①では 28 人中 24 人が LGBT を知っている。4 人が知らないと答えた。②では 28 人中 15 人が職場で、4 人が家事で、3 人が学習で、1 人が子育てで男女差別を感じると答えた。③では 28 人中 7 人が差別をなくすための教育を受けたことがあると答え、21 人が受けたことがないと答えた。④では 28 人中 28 人全員が必要だと答えた。

① Do you know about LGBT?



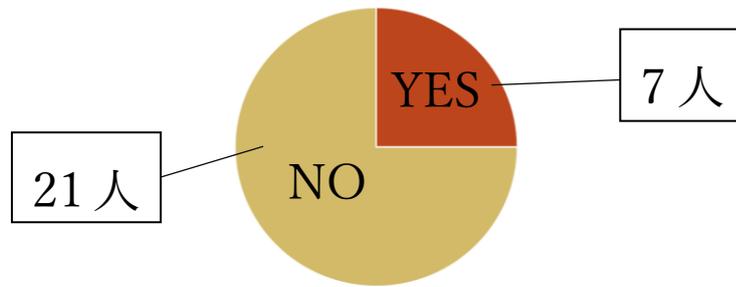
この質問において全体の 4 分の 3 の人々が YES と回答したという結果から、かつてはあまり知られていなかった LGBT という言葉への人々の関心がインターネット社会の広がりによって高まってきているということが分かる。

② What kind of time do you feel gender discrimination?



青色が職場、オレンジが家事、灰色が学習、黄色が子育てこの質問において全体の約 8 分の 5 の人々が職場で差別を感じるという結果が生じた。LGBT の人々の現状でも述べた通り職場では他の職員との関係、関わり方において、また企業との関係において悩みが生じやすいのではないかと考えられる。

③ Have you ever attended the class to eliminate discrimination ?



この質問において3分の2もの人々が差別問題についての授業を受けたことがないという結果が生じた。この結果から、差別教育が十分でないということが分かる。差別問題に対する認識を深めることは、多様性を尊重するという意識を高めるために重要である。差別問題に触れるきっかけを作ることが重要である。

④ Do you think that teaching materials to eliminate discrimination are needed?

この質問については回答者全員がYESと答えた。人々に差別問題に真剣に向き合い、理解を深めたいという意識があることが分かる。このような人々の関心をより引き出し、差別問題について積極的に調べ、考えるような雰囲気作りが大切だと考えた。

(4) 行政の取り組み

(ア) 同性パートナーシップ証明制度

同性パートナーシップ証明制度とは、婚姻とは異なるが男女の婚姻関係と同程度の実質を備えた戸籍上の性別が同じ二者間の関係を「パートナーシップ」と定義し、一定の条件を満たした場合に婚姻とは違い、法的拘束力を持たないパートナーの関係であるということを証明するものである。

渋谷区ではこの制度が導入され、「渋谷区男女平等及び多様性を尊重する社会を推進する条例」に基づき、男女の人権の尊重とともに、「性的少数者の人権を尊重する社会」の形成を推進している。パートナーシップ証明を申請できる人の条件としては以下が挙げられている。

- ・渋谷区に居住し、かつ、住民登録があること
- ・20歳以上であること
- ・配偶者がいないこと及び相手方当事者以外のパートナーがいないこと
- ・近親者でないこと

このように婚姻以外の関係の表し方があることで、パートナーとの間で自分たちが考える最も良いあり方を選ぶことができるため、LGBTの人々にとっての可能性を広げることにつながると考えられる。

(イ) 「みんなのトイレ」

「みんなのトイレ」とは障害者や高齢者、性的少数者にも配慮がなされた、誰でも使用できるトイレである。愛知県豊川市の小学校では生徒用のトイレを改修し、男子用、女子用と別に「みんなのトイレ」設置された。廊下から前室を経て各トイレに入る設計で、廊下からは生徒がどのトイレに入ったか見えない。

この設備は、LGBTの人々や障害を抱える人々の日常での負担やストレスを軽減することができる。

(5) 企業の取り組み

(ア) 「リクルート住まいカンパニー」

リクルート社は、LGBTの人々に対して理解を示す大家の所有する建物をインターネット上で検索できるウェブサイトを運営している。LGBTの人々の不安として、家探しの際のトラブルが多くあげられているが、この対策によってトラブルや不安の軽減が期待される。

(イ) LGBTフレンドリーな企業

麒麟や楽天などの企業では、LGBTに関する研修を行ったり、同性婚を法律婚と同等に扱ったりするなど、LGBTの人々にとって働きやすい環境づくりがなされている。

このような取り組みが全ての企業で行われるようになれば、会社内でのいじめやカミングアウトの強要によって転職を余儀なくされるような事例も減るだろう。

(6)まとめ

私たちは、海外フィールドワークや LGBT の人々の生の声を通して、多くの人々に LGBT の人々の現状について知ってもらい、興味を抱かせ、正しい知識を広めることが最も大切なことであると考えた。そのため私たちは LGBT に対する理解を広めるため、LGBT の人々を応援するレインボーグッズを作成し、あまり知られていないレインボーグッズを普及させようと思う。レインボーには多様性を尊重するという意味が込められている。レインボーの 7 色それぞれにも意味があり、赤は「生命」、橙は「癒し」、黄は「太陽」、緑は「自然」、藍は「調和」、紫は「精神」を意味する。そのため多くの LGBT 支援団体でもロゴマーク等として用いられている。以下の画像はレインボーグッズの一例である。従来のようなピンバッジ等の露骨な応援グッズとは異なり、普段使いのしやすいデザインで今まで応援グッズを持つことに抵抗があったような人でも気軽に使うことができる。

レインボーグッズを身につけることで、LGBT の人々に対する尊重を示すことができ、LGBT の人々が過ごしやすい環境づくり、雰囲気づくりに貢献することができると考えられる。また、差別問題について少し関心があるが、積極的に調べていない人にも差別問題について考えるきっかけにもなるだろう。この取り組みが広く普及すれば、いつか LGBT の人々が偏見の目にさらされず、ひとつの個性として受け入れられ、LGBT の人々にとって暮らしやすい世界が訪れるのではないかと思う。



(7)参考文献

- ・LGBT の現状と課題 参議院

https://www.sangiin.go.jp/japanese/annai/chousa/rippou_chousa/backnumber/2017pdf/20171109003.pdf

- ・SDGs とは? 外務省

<https://www.mofa.go.jp/mofaj/gaiko/oda/sdgs/about/index.html>

- ・パートナーシップ証明証 渋谷区公式サイト

<https://www.city.shibuya.tokyo.jp/kusei/shisaku/lgbt/partnership.html>

- ・みんな快適に学校のトイレ LGBT に配慮 中日新聞

<https://www.chunichi.co.jp/article/feature/kyouiku/list/CK2019101302000015.html>

- ・LGBT フレンドリーな企業まとめ

<https://lgbt-life.com/topics/lgbtcompany/>

- ・LGBT の象徴、レインボーフラッグの秘密

<https://jobrainbow.jp/magazine/rainbowflag>

(2020 年 2 月 18 日閲覧)